

第2回 北上川上流ダム再生環境影響評価技術検討委員会 議事概要

(事務局説明を除く、質疑応答について記載)

(○：委員、●：事務局)

1. 前回委員会での意見と対応状況について

- 委員：雫石川のフィルター材採取予定地において、重要種が確認された場合はどのように対応するのか。
- 事務局：材料採取箇所については、現在調査中である。重要種が確認された場合は適切に配慮する。
- 委員：ダム湖水位低下時の出現環境（草地等）を利用する種も想定されることから、これらを把握できるよう適切な時期に調査を実施して欲しい。
- 事務局：承知した。

2. 方法書（案）の概要について

- 委員：「地形及び地質」は環境影響評価項目として選定しないとのことであるが、原石山周辺にも重要な地形・地質は存在しないのか。
- 委員：原石山周辺には周氷河地形といった特殊な地形が分布しているため、環境影響評価項目として「地形及び地質」を選定し、日本の地形レッドデータブック等の指定状況等も踏まえて、評価してもよいのではないか。
- 委員：委員会で最終段階の報告を受けるだけでは、効果的な手を打てなくなる恐れがあるので、担当分野ごと途中段階での個別協議をお願いしたい。環境影響評価を進めるうえで、各専門家へ必要な段階で個別に相談を仰ぎ、状況に応じた最善な対応を検討し進めてもらいたい。
- 事務局：ご意見のとおり対応する。
- 委員：ボーリング調査を実施中とのことであるが、その際にダム湖に堆積した高濃度のヒ素が流出することはないのか。
- 事務局：ボーリング調査はダム堤体下流で行っており、ダム湖内（水中）では実施していないため、ヒ素の流出の心配はない。
- 委員：工事期間がどの程度になるのか、大まかな事業計画を示して欲しい。大体何年かけて改変するのか等、概略の予定が分からないと、事業による影響を判断することが難しい。
- 事務局：事業計画を検討中であり、できるだけ早く示したい。
- 委員：地域概況の出典一覧に、岩手県でとりまとめた「岩手県自然環境保全指針」等が入っていない。
- 事務局：資料に記載しているのは主な文献の抜粋である。誤解を招かないよう、資料中の表現を修正する。また、ご指摘の文献については補完して整理する。

○委員：フィルター材採取地や下流河川の調査方法については、サンプリングの取り方や調査範囲等が、対象とする環境や生物項目によって異なってくるだろう。

●事務局：個別にご意見をいただきながら進めていく。

3. 現地調査を踏まえた原石山予定地に対する意見について

○委員（現地視察時の意見）：原石山予定地周辺のサクラの植樹箇所は、現状では管理が行われていないため、山の奥側では他の樹木に被圧されサクラが衰退している。

○委員（欠席のため事前意見）：原石山周辺の主要な眺望点の候補地として、天峰山が想定される。頂上のお寺（桂松院）からは原石山予定地が見えるかもしれない。

●事務局：今後実施予定の原石山周辺における景観調査の候補地点として検討する。

○委員（欠席のため事前意見）：ロック材調達において、原石山採取案は、賦存量やコスト等の面でハードルが高いように感じる。骨材購入案も視野に入れつつ、比較材料を示した上で、最終的に決めると良い。

○委員：原石材料購入も1つの案ではあるが、材料運搬に伴い運搬車両のCO₂排出も想定されるので、近い場所から採取できるメリットもある。

●事務局：ロック材の調達方法については、今後、環境面や技術面等の比較検討を行った上で、決定する予定である。

○委員：原石山の環境調査では、過去の材料採取推定箇所も含めて比較できるように調査範囲を設定するとよい。

●事務局：承知した。

4. 今後の予定について

○委員：今後、雫石川の材料採取予定地の現場も確認したい。

●事務局：承知した。

○委員：調査結果のとりまとめにあたり、河川水辺の国勢調査のデータを活用する場合は、ダム再生事業の調査とは手法が異なるかもしれないので、どちらの調査を参考にしているのかわかるように整理すること。

●事務局：承知した。

5. 委員会資料の公開対象について

○委員：資料-6のP.13の主な重要種の種名及び写真、P.17の上位性の選定結果及び写真については、重要種の生息箇所が特定される恐れがあるためマスキングした方がよい。

●事務局：公開資料の案を作成し、委員の皆様へ照会させて頂く。